

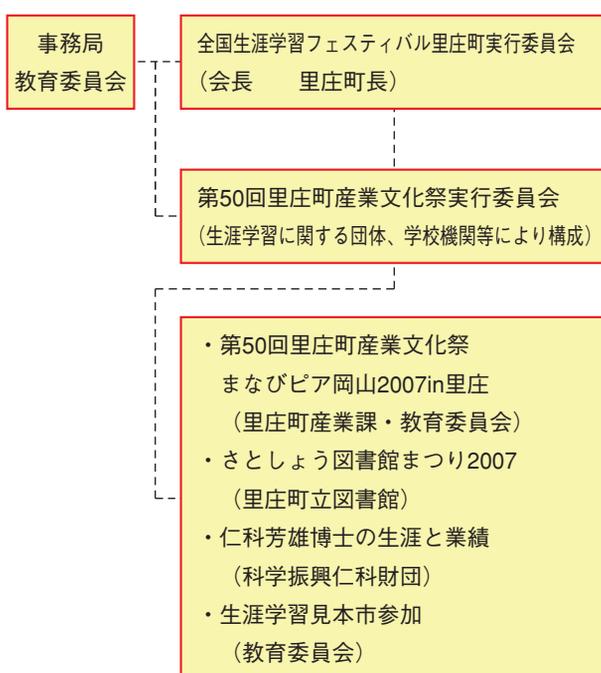
# 里庄町

## 1 推進体制（組織図）

(1) 平成19年2月15日に里庄町長を会長とする全国生涯学習フェスティバル里庄町実行委員会（委員20名、以下「実行委員会」とする）を設置しました。

(2) 平成19年7月17日に全国生涯学習フェスティバル里庄町主催事業を円滑に行う組織として、関係機関・団体による第50回里庄町産業文化祭実行委員会（委員34名）を実行委員会の下に設置しました。

### 【組織図】



## 2 基本方針

第19回全国生涯学習フェスティバルの開催趣旨は、「学習活動や学習成果発表の場を全国的な規模で提供し、生涯学習への意欲を高め、生涯学習活動への参加を促進するイベントです。」とあります。また、岡山県が5カ年計画で策定された、第2次岡山県生涯学習推進計画の基本目標では、「県民一人ひとりが自発的な課題意識による主体的な学習を通して、自己実現を図るとともに、地域社会への誇りを持ちながら、積極的に地域社会づくりに参画できる「生涯学習社会☆おかやま」の実現により、地域住民が主導する「まちづくり」と「ひとづくり」を推進する。」とあります。

実行委員会では、この2つの考えを基に、里庄町として実現可能な範囲で事業が展開できる様、下記のとおり里庄町基本方針を定めました。

### 【里庄町基本方針】

- 生涯学習フェスティバル開催の趣旨にのっとり、既存の事業を柱にして、事業を効果的に組み合わせることにより実施する。
- だれもが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることのできるフェスティバルとする。
- 「ひとづくり」「地域社会づくり」に寄与できるフェスティバルとする。
- 町民と行政・事業者等との協働によって開催するフェスティバルとする。
- 里庄町の取り組みや方向性を町内外にアピールできるフェスティバルとする。
- 開催年だけにとどまらず、その後においても効果が継承されるフェスティバルとする。

## 3 企画運営・事業展開

生涯学習フェスティバル開催時期と同時期に、既存の事業を実施する予定であった関係機関・団体等と調整し、これらの事業を主催事業と位置付け、事業内容、運営主体、実施方法等について協議を行いました。

### ○主催事業（4事業）

#### ①第50回里庄町産業文化祭

まなびピア岡山2007 in 里庄

日時：11月3日（土）

会場：里庄町福祉会館及び町役場周辺  
里庄総合文化ホール「フロイデ」

内容：文化協会・婦人会・各種サークルなどが中心となって、日頃の学びの成果の展示や発表会、その他いろいろなイベントを開催。



#### ②さとしょう図書館まつり2007

日時：11月3日（土）・4日（日）

会場：里庄町立図書館

内容：図書館ボランティアによる人形劇・工作・読み聞かせなどの「おたのしみ会」や「ふるさとの昔話」と題して「図書館講演会」を開催。

### ③仁科芳雄博士の生涯と業績

日時：11月2日(金)～6日(火)

会場：仁科会館

内容：各種器材による体験コーナーの設置や仁科芳雄博士の資料展示・ビデオ鑑賞会の実施。

### ④生涯学習見本市

日時：11月2日(金)～6日(火)

会場：岡山県総合グラウンド(桃太郎アリーナ)

内容：里庄町の生涯学習や観光などの紹介。

## 4 広報啓発

### (1) 屋外広告物

○里庄町役場・里庄町福祉会館・里庄町立図書館・町内公民館などに「まなびピア岡山2007」のぼりを設置

### (2) 印刷物

#### 【印刷部数】

○第50回里庄町産業文化祭

まなびピア岡山2007in里庄チラシ4000部

○芸能祭プログラム350部

○さとしょう図書館まつり2007チラシ350部

○仁科芳雄博士の生涯と業績チラシ350部

#### 【配布先】

○町内全世帯、小・中学校、幼稚園、町施設、関係機関・団体など

### (3) 広報誌への情報掲載

○広報さとしょうへの特集記事掲載

○協賛事業主催者への情報掲載依頼

○コミュニティ、関係機関、団体等への情報掲載依頼

### (4) メディアを活用したPR活動

○ケーブルテレビ内の行政チャンネルによる広報

○FMラジオによる広報

### (5) その他

○看板の作成

○町ホームページでの広報

○協賛事業開催時における広報活動

○県作成広報・啓発用品を活用したPR活動

○県作成チラシ、ポスター、ガイドブック、ミニのぼり、ぬいぐるみの掲示

○スタンプラリーへの協力

○イベントへの開催(第6回教育を考えるつどい)

## 5 成果と課題

### ○ 成果

フェスティバル期間中は、天気にも恵まれ、すべてのイベントを無事に開催することができました。また、関係機関、各種団体の多大なご協力により開催期間中の里庄町への来場者は、約3300人を数えました。

今回のフェスティバルにおいては、多くの参加者に生涯学習について考えていただく情報提供の場になっただけでなく、新しい学びに取り組んでいくきっかけづくりにもなったと考えています。

事務局としましても、関係機関、各種団体とは、普段に増しての、意見・情報交換を通して、連携・協力関係をより深めることができました。これからの生涯学習活動、さらには、平成22年度に開催される「第25回国民文化祭・おかやま2010」に向け、大きな成果に繋がったと考えています。また、今後の生涯学習イベントの立案に参考となる、県や各市町村、関係団体の魅力的な事業をたくさん見ることができ、大変有意義なものとなりました。

### ○ 課題

里庄町が単独自立での行政運営をするにあたり、行政主導ではなく、地域住民との協働による「まちづくり」が大変重要になってきています。

生涯学習により、地域住民が、自発的な課題意識による学習を通じて自己実現を図り、地域社会への誇りを持ちながら、積極的に地域社会づくりに参画できるような体制づくりには、学習者が参加したい、学びたいという関心・意欲に添うような学習機会の提供や講座の開設、施設・設備の整備等に関する地域住民の要望を具体化することが大切です。また、学習成果の活用促進にも力を入れる必要があります。学習成果を個人のキャリア開発に生かすことはもちろん、ボランティア活動や地域社会の発展に生かしていけるようにしていかなければいけません。

今回のフェスティバルを通して、各種団体と行政との連携により広がった生涯学習の輪を、今後、どのように推進・活用させ、里庄町が目指す「まちづくり」のテーマである、「こころふれあう、緑豊かで文化のかおるまち里庄」に繋げていけるかが、大きな課題であると考えています。

# 矢掛町

## 1 推進体制

矢掛町では、平成18年11月20日に生涯学習推進協議会を開催し、この会が全国生涯学習フェスティバル矢掛町実行委員会を兼ねることを決定しました。さらに、この会議の中で矢掛町主催事業の検討がなされ、教育委員会だけの担当で実施するのではなく、町長部局も交えての主催事業を実施することが実行委員から提案され了承されました。そこで、矢掛町の主催事業として、「健康と福祉のまつり」、「ふれあいと学びのフェスタ in やかげ」、「ゆめらんどフェスティバル」を11月3日、4日の2日間で開催することとし、準備を開始しました。従来、「健康と福祉のまつり」では、保健福祉課、健康管理センター、町立病院、町民課、上下水道課で実施されており、「ふれあいと学びのフェスタ in やかげ」では、教育委員会と保健福祉課ふれあい会館が共同で実施していた経緯がありました。そこで、今回の全国生涯学習フェスティバル矢掛町主催事業については、保健福祉課が担当課として全体の連絡調整役になることになり、それぞれの課の関係団体は各課で連絡調整するという体制で、矢掛町主催事業について計画運営していくことになりました。

また、「ゆめらんどフェスティバル」については、町立図書館とふれあい会館で、「矢掛公民館祭」については、「健康と福祉のまつり」と隣り合う会場なので、相乗効果が得られるよう公民館が計画にあたりました。

## 2 基本方針

矢掛町では、岡山県下すべての市町村の主催事業参加の方針のもと、本町にあった参加のしかたを検討しました。

そこで、新たな事業を実施するのではなく、既存の事業を見直し、全国生涯学習フェスティバルの開催日にあわせて実施することが、実行委員会で決まりました。いくつかの事業を同時開催することにより、それぞれの事業の相乗効果で来訪者が増え、事業がより活性化することが期待されました。

全国生涯学習フェスティバルの開催日が11月2日から11月6日まででしたので、期間中の休日である11月3日、4日を中心に開催することにし、11月3日に子ども対象の参加型イベントとして「ゆめらんどフェスティバル」を実施し、11月4日には一般参加のイベントとして「健康と福祉のまつり」「ふれあいと学びのフェスタ in やかげ」および「矢掛地区公民館祭」を同時開催することにしました。展示等については、全国生涯学習フェスティ

バル開催期間にあわせて開催することにしました。

また、岡山県主会場の桃太郎アリーナの生涯学習見本市に、里庄町と合同で1ブースを出展しました。内容については、実際に来場するかたは町外の方が多いことを念頭に、矢掛町の生涯学習資源の中でも特に歴史と文化を取り上げました。町内の至る所に歴史的遺産が残され、文化が伝えられておりますので、町全体を博物館ととらえた展示物を作成し、矢掛町のこのような「学び」の場の紹介を通じて町内外に矢掛町の生涯学習を広報することにしました。

## 3 企画運営・事業展開

### (1) 企画運営

担当課である保健福祉課を中心に、関係諸機関との綿密な打ち合わせを行いました。主な経過は次の通りです。

- 4/20 ふれあいと学びのフェスタの講演者決定  
(志ネットワーク・上甲晃氏)・第1回調整会議  
(保健福祉課、町民課、教育課)
- 6/25 第2回調整会議
- 7/17 事業内容の取りまとめ
- 7/19 事業全体の構成について決定
- 8/2 第3回調整会議
- 8/10 矢掛公民館との調整
- 9~10月 関係者との具体的打ち合わせ
- 11/15 第4回調整会議 (反省)

### (2) 事業展開

矢掛町主催事業として次の通り実施しました。

#### ①ゆめらんどフェスティバル

- 日時 11月3日(土) 10:00~15:30
- 場所 やかげ文化センター、町立図書館
- 内容 読み聞かせ・読み語り、絵本ライブ

#### ②健康と福祉のまつり

- 日時 11月4日(日) 9:00~13:30
- 場所 町役場駐車場、矢掛町農村環境改善センター
- 内容 相談コーナー、元気体操、福祉バザー、抽選会

#### ③ふれあいと学びのフェスタ in やかげ

- 日時 11月4日(日) 9:00~15:30  
(展示については11月2日から11月11日まで)
- 場所 やかげ文化センター
- 内容 生涯学習表彰、ふれあい会館講座発表  
講演 (志ネットワーク・上甲晃氏)  
ふれあい会館講座生展示、生き生き矢掛町民教授展示、PTA生涯学習面彫り講座展示

#### ④矢掛地区公民館祭

- 日時 11月4日(日) 9:00~13:30

場所 矢掛会館

内容 公民館講座生のステージ発表、展示発表、公民館学級・クラブの作品や活動紹介、バザー

## 4 広報啓発

広報啓発については、事業の実施を広く町民に知らせ、事業の気運を高めるため、様々なメディアを通じて広報を行いました。

### (1) 屋外広告物

- ①矢掛町役場、やかげ文化センター、井原鉄道矢掛駅、各地区公民館、町立小学校、中学校、幼稚園に「まなびピア岡山2007」ののぼりを設置しました。
- ②やかげ文化センター内に「まなびピア岡山2007」の大きなロゴマークを設置しました。

### (2) 印刷物

- ①矢掛町くらしのカレンダーに掲載しました。
- ②矢掛町広報10月号に掲載しました。
- ③新聞折り込みチラシで広報しました。
- ④学校を通じて児童生徒にチラシを配布しました。

### (3) その他

- ①有線放送、矢掛放送（ケーブルテレビ）の放送メディアを使って広報しました。
- ②公民館主事会議、社会教育委員会等の様々な会議の機会をとらえて実施内容を広報しました。
- ③ミニチュアのぼり、マスコット人形をやかげ文化センターと矢掛町役場内に配置しました。
- ④井原鉄道得得市の機会を利用して、井原鉄道矢掛駅前でもなびピアのチラシとティッシュを配布しました。
- ⑤生涯学習講座の機会を利用してまなびピアのティッシュやうちわを配布しました。
- ⑥矢掛町立図書館主催の子ども向けイベント開催時に、マナビの着ぐるみを招聘しました。
- ⑦当日の来場者増員のため、空くじ無しの抽選付きスタンプラリーを実施しました。



11月3日(土) ゆめらんどフェスティバル「あきやまだし」絵本ライブ



11月4日(日) やかげ文化センター会場の様子



11月4日(日) 健康と福祉のまつり



11月2日(金)～11月10日(土) 生き生き矢掛町民教授展示発表

## 5 成果と課題

### (1) 成果

「まつり」的要素と「学び」的要素を兼ね備えた事業の企画により、来場した町民が楽しみながら学ぶことが実現できました。また、町内の様々な団体が一堂に会して事業に参画することができました。

行政組織としては、教育委員会、保健福祉課、町民課、上下水道課、健康管理センター、町立病院、ふれあい会館という多数の部署が参画し、さらに、それぞれが関係する団体が連携しての事業を実施しましたが、担当課である保健福祉課が丁寧に計画立案準備を行い、他の部署も役割分担を完遂することにより、円滑な事業の実施ができました。

学校によっては、大会期間中に県の主催会場への校外学習を実施しており、子どもたちは全国レベルの生涯学習の「学び」を体験することができました。

### (2) 課題

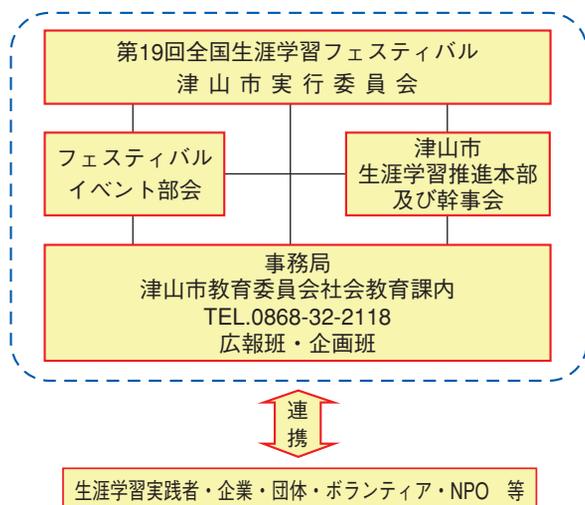
矢掛町主催事業として、ステージ発表、講演、展示と相談コーナー、体験コーナー、バザーなどが同時に実施されました。今回は行事が重ならないように、講演の時間には他の会場を終了させましたが、講演を聞きに来た人とバザーを楽しむ人とは来場の目的が異なるので、それぞれの会場で終日開催することも考えられました。

今回の日程については、全国生涯学習フェスティバルに日程を合わせたため、町内の事情を考慮すると検討の必要があります。今後の主催事業の継続については、今回の成果と反省をふまえ、次年度からはいっそう町民の身近な会になるよう、事業の再構築の検討を始めました。今回の生涯学習フェスティバルでは、各種団体と行政との連携、行政内での連携などについて、新たな動きがありましたので、今後、この動きを生かしながら、協働の町づくりのために町民自らが参画していけるような地域づくりが、期待されます。

# 津山市

## 1 推進体制（組織図）

第19回全国生涯学習フェスティバルの津山市における推進体制



(1) 平成18年8月30日に津山市長を会長とする全国生涯学習フェスティバル津山市実行委員会（委員23名、以下「実行委員会」とする）を設置しました。

(2) 専門部会として平成18年10月5日に官民協働で津山イベントの企画・広報を運営するためプレフェスティバル部会を設置し、平成19年5月7日にイベント部会と名称を変更しました。

(3) 平成19年4月10日には、企画班を平成19年4月20日には広報班をそれぞれ立ち上げ、津山イベントの企画・広報の運営を円滑に行うための組織を事務局内に設置しました。

## 2 基本方針

全国生涯学習フェスティバルは、「生涯学習に係る活動を実践する場を全国規模で提供することで、生涯学習への意欲と参加を促進し、生涯学習の振興を図る」目的で開催される参加・体験型のイベントの全国大会です。平成19年度は、平成19年11月2日（金）～6日（火）の5日間に岡山県で開催され、県の方針で県内全市村が同時に事業実施されました。

津山市においても、県の事業展開方針に基づき、主体的に学ぶことの楽しさや大切さに触れることで、身近な地域に対する関心が一層深まり、また、自分達が住む地域に誇りを持つことで、地域社会の活性化に大きな効果をもたらす等、生涯学習による「人づくり」、「地域社会づくり」に向けた生涯学習推進の大きな弾みになる事を目指して開催しました。

津山市での事業実施に当たっての具体的な方針として次の4つの方針を掲げ生涯学習の振興を目指しました。

- (1) 官民協働で、既存の事業も活用・充実しながら津山市の特色を活かします。
- (2) 誰もが参加・交流・体験でき学びを身近に感じることができるようにします。
- (3) 合併後の新市の「一体感の醸成」「人づくり」「地域社会づくり」に寄与できるようにします。
- (4) 開催の成果が継承されるようにします。

テーマはこれからの津山市の輝く未来を築いていく子どもたちに焦点をあて「体験活動を通じて、子どもの夢をはぐくみ、可能性をひらく」とし、「子どもの活動にいろいろな世代の人がかかわる」をサブテーマにしました。

## 3 企画運営・事業展開

### (1) 企画運営

事業全体の基本構想・事業計画については、平成18年8月から3回の実行委員会を開催し準備を進めました。

平成19年4月からは、事業毎の具体的な事業内容と実施方法等について事務局内の企画班会議を6回開催し、検討・協議を行いました。また、子どもたちの体験広場の企画・運営は関係団体の代表や大学生から構成されたイベント部会で、6回会議を開催し準備を整えました。

### (2) 事業展開（津山市主催事業）

11月3日（土）

#### ① オープニングセレモニー

（北陵太鼓・吉備キビ桃太郎体操）2団体出演

#### ② まちかどステージ

（合唱団・チアリーダー・マジックショー・吹奏楽・よさこい踊り）5団体出演

#### ③ 遊びと学びの体験広場及びビデオ上映

（陶芸、ロボットの操縦、染物、昔遊び、AED、ようこそ妖怪ワールドへ、FMディスクジョッキー等の体験・図書館での歴史等のビデオ上映）7団体出展

#### ④ 食の体験広場

（なつかしの給食、食の探検隊、ほんとうのきび団子作り、絵本のなかのおかし、世界の朝ごはん、包丁細工職人大前輝伽子さんのパフォーマンス、食育についてのPR）

#### ⑤ 地産地消コーナー

（農産物・手作り工芸品の販売、織物・そば打ち・もちつきの実演と販売・高校生による鯉・加工食品の販売実習ふくふくタオルの展示）8団体出展

#### ⑥ 青島広志さん（小野勉さん）コンサート

#### ⑦ 野村まさこさんバルーンパフォーマンス

⑧ エンディングセレモニー（抽選会）

11月4日（日）

⑨ 津山洋学資料館文化講演会

⑩ 津山洋学資料館特別展「美作に残る岸田吟香の足跡」

⑪ 子どもミュージカルジャパニーズ「オズの魔法使い」

⑫ 津山郷土博物館特別展「城下町と酒」

**(3) 学生ボランティア 延べ107人の参加**

## 4 広報啓発

### 平成18年度からの取り組み

- (1) 懸垂幕の掲出（10月に市役所東庁舎に掲示）
- (2) 「クリアファイル」「ポケットティッシュ」の作成と配布（プレ大会で配布）
- (3) 「スタッフジャンパー」「Tシャツ」「トレーナ」の作成と着用（プレ大会で着用）
- (4) マナビイ人形の設置（県作成の大小マナビイ人形を社会教育関係施設等へ設置）
- (5) 市広報誌での広報（10月号からマナビイ通信の連載）

### 平成19年4月からは、事務局内で広報班会議を6回開催し積極的に広報活動を進めました。

- (1) 「協力事業用看板」「ポケットティッシュ」「のぼり旗」の作成と配布（津山市では平成19年4月1日から12月31日までの期間、大会の機運を盛り上げるため、津山市実行委員会協力事業として生涯学習関連事業を募集、103の協力事業を実施、各事業のチラシにロゴマークを使用）
- (2) ファックス送信票・リサイクル封筒のまなびピアPR用の書式の作成・配布
- (3) 津山市主催事業の総合ポスターの作成と掲示（高専学生によるデザイン）
- (4) イメージソングの放送（昼時間に市役所内で放送）
- (5) 市役所受付のインフォメーションシステムでの広報
- (6) 地元ケーブルテレビの広報、新聞等での広報
- (7) カーマグネットステッカーの作成と配布（主に公用車に設置）
- (8) マナビイの塗り絵の募集と展示（市内小学校1・2年生から募集し、約900点を展示発表）
- (9) まなびピア絵手紙の募集と展示発表（各公民館講座・カルチャー講座等から募集し、約350点を展示発表）
- (10) ポスター展の開催（津山市主催事業18種類・県作成4種類等）
- (11) 主催事業のチラシの作成と配布（青島広志さんコンサート・なつかしの給食・本当のきび団子作り）
- (12) 総合チラシの作成と配布（市内各保幼小中学校及び社会教育関係施設・関係団体に配布 20,000部）

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ① 官民協働で企画・運営ができました。地元の美作大学や津山高専との連携した取り組みも実施できました。また、「洋学の講演会」や「つやま自然のふしぎ館」の見本市への出展など津山市の特色を活かすことができました。
- ② 多くの来場者があり、活動の成果に触れたり、見たり、体験したりしたことで、学習のきっかけづくりにつながりました。また、本事業の出演者・出展者も日頃の活動の成果を発表することができ、学びの楽しさを再認識することができました。さらには、生涯学習を実践している者同士の、出会いと交流の場となりました。同世代はもとより年齢を超えた相互交流が行われ、生涯学習・地域づくりのきっかけづくりとなりました。一番大きかったのは「人と人のネットワーク作り」ができたことです。ネットワークができることで、できなかったことができるようになったり、そこに关わる人々の活力を生み、さまざまな可能性を拓いていく大きなきっかけとなりました。ステージ発表の出演団体は、他団体の発表等を観覧し、生涯学習の意欲の向上と広がりへのきっかけづくりとなりました。

この他、地元小学生・中学生・高校生・大学生・高専生の学生ボランティア延べ107人が企画や運営などに積極的に参加しボランティアの輪も広がりました。

- ③ 地産地消コーナー・ミュージカルの発表・まなびピア絵手紙展・マナビイの塗り絵展などを通して合併後の「新市の一体感の醸成」に寄与することもできました。特に絵手紙の展示にはたくさんの来場者がありました。

### (2) 課題

- ① 市内の公民館活動等と連携を密にし、生涯学習の成果を発表する機会の場の提供や現有施設等を有効活用した年間を通した事業を設定するなど、参加機会の拡充が求められています。
- ② 「生涯学習」の意味合いが多岐にわたっており、実施するその事業が「生涯学習」にふさわしいものかどうかを検討することが必要です。生涯学習活動に対する市民のニーズを捉え、参加者や運営者の利便性や達成感を考慮した企画や運営を工夫することも求められています。
- ③ 「フェスティバルの成果の継承」については、単に成果の発表や展示などの「事業の継続」のみではありません。自主的に活動している方（団体）、平素から光が当たらない方（団体）をいかに見出し、スポットが当たるようにしていくか、いかに支援していくのかという視点をもつことがとても大切であると感じています。